

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500030		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホームシリウス奥州		
所在地	023-0065 岩手県奥州市水沢字水山4-1		
自己評価作成日	令和6年12月23日	評価結果市町村受理日	令和7年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○地域との共生 地域との交流や保育園との交流 ホームの行事、地域の行事、保育園の行事でお互いに参加、協力関係が出来てきている。消防訓練等へ地域住民に参加いただいているおり、ホームからは地域の文化祭や運動会に利用者様とともに参加している。民区の草取り等へ参加など協力関係が出来ている。また、目の前が小学校の通学路・保育園の散歩コースであり、利用者様が子供達に手を振られるなど、自然に交流が出来ている。 (新型コロナウイルス流行後は交流の大半は自粛している。今年度の参加は草取り、地区清掃のみ)
○経験豊富な職員が多く、指示がなくとも、その場の職員で話あって自発的に考え、行動することが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は水沢市街地の中心部に立地し、市役所にも近く小学校や保育園も近接している。理念の一つに地域との共生を掲げ地域との交流活動を行ってきたが、コロナ禍で一時中断しており、最近になってようやく保育園児やベトナムの技能実習生の来訪があるなど、再開に向けた試みがなされている。また、図書館から昔の地域の写真などを借りてきて、回想法の一つとして利用者の思い出話に活用するなどの試みも行っている。利用者の大半が90歳以上の高齢者となっているため、食事や入浴は、なるべく個々の利用者の好みや身体状況に適したケアとなるよう心掛けている。ミニドライブなどの外出支援も継続して行っており、お花見や紅葉狩り等の機会は良い気分転換となっている。経験豊富なベテラン職員が多く、気が付いたことは率直に意見を出し合い、改善に繋げることができている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	「評価機関・特定非常利活動法人 いわての保健福祉支援研究会」			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念等を事務所内に掲げ、常に確認出来る様にしている。	18年前の事業所開設時に管理者と職員が話し合って定めた「家庭的な雰囲気の中で地域と共に暮らし、人として尊厳ある生き方を支援します」の理念を継続している。理念は事務室に掲示しており、ベテラン職員が多いため理解が進んでいると考えている。新規の職員には改めて理念の考え方をレクチャーし理解を促している。	理念を定めてまもなく20年を迎えますが、改めて見直しの必要性がないか検討し、また、現理念の確認を毎月のスタッフ会議で行うなどして、全職員が常に理念を意識した介護となるよう期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には、利用者、職員共に積極的に参加、交流していた。コロナ禍でも地区清掃、草取りには参加している。 施設前の歩道を歩く保育園児や小学生に、利用者様が手を振り、交流される様子が頻繁にみられる。	コロナ禍において、以前に行われていた地域の行事や祭りへの参加、小学校や保育園との交流は行われなくなり、現在は職員が町内会の清掃活動に参加する程度に止まっている。それでも最近、保育園児が来訪して合唱を披露し手作りのプレゼントを手渡したり、ベトナムの技能実習生が来訪して交流している。100歳のお祝いに地元の団体が来訪して歌や踊りを披露してくれるなど、徐々に復活の傾向にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部へ知識等のフィードバックは出来ているとは言い難い。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて地域・行政より意見、情報を頂戴している。	委員は、自治会役員と民生委員、市長寿社会課、家族代表等で構成されているが、家族や自治会役員の参加がない状況が続いている。「地域と共に暮らす」という理念もあり、特に地域の関係者の参加が必要となっており、来年度に向けて新たな委員の参加を進めることを考えている。	「地域と共に」という理念に沿って、様々な交流事業を行なう上でも、委員として地域関係者の参加を増やす必要があり、自治会関係者などとお会いして話し合うなどの取り組みを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿社会課の方に運営推進会議の委員となって頂き、助言を頂ける体制をとっている。	運営推進会議には、市長寿社会課職員が参加しており運営状況は良く理解されている。日常的にもざくばらんに相談し情報提供を得ている関係にある。また、市の介護相談員が半年に1回程度来訪して利用者の相談に応じている。生活保護受給者が3人入居しており、担当ケースワーカーは定期的に来訪して生活状況を確認してくれている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組み、ベッドからの転落の不安のある利用者にはセンサーを使用し、離床にすぐ気づけるようにしている。玄関については夜間の施錠のみに留めている。身体拘束に関する内部研修も実施している。	職員全員で構成する身体拘束防止委員会を設置しており、3カ月に1回開催している。職員への研修は年2回実施している。転倒防止のためのベッドセンサーは3人が利用しており、家族には説明し理解を得ている。玄関の施錠は、外部からの侵入防止もあり17時から翌朝7時までに行っている。スピーチロックについては、その都度注意し合っており、委員会でも話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修(国内の虐待に関する報道記事等活用)や、職員同士情報交換を行い虐待防止に向けて、共通の意識を持ち虐待が見過ごされる事がないよう防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、対象の方が入居された時は職員含めて学習しているが、現在は職員全体での理解は進んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居申請の時に概要を説明し、契約の際は重要事項説明書、契約書にて説明を行い理解、納得して頂くように努めている。契約内容への疑問があれば随時問い合わせ頂くよう併せてお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会記録簿に記入欄を設けている。また来訪時や外部評価の「ご家族からのアンケート結果」からお話が出た案件は、職員会議や運営推進会議に報告し意見を聞き改善に繋げている。	家族とは面会や通院の付き添いで来訪の際に、職員とも面談して様子などを伝えるようにしている。面会時の家族記入欄に意見等が記されることはない。また、年に3回、利用者の日頃の状況や行事の写真などを掲載した広報を作成し家族に送っている。運営推進委員として家族代表の参加をお願いしているが、引き受けてくれる方がいない状況となっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームシリウス奥州

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者はスタッフ会議・申し送りの際など、随時職員からの意見や提案を聞き介護の方針・業務に反映させるよう努めている。	日常的に職員から思いついたことを提案する雰囲気があり、良く意見等が出されている。ケアの改善に繋がった例として、入院から戻った方の食事は複数の皿に小分けすることで食事面が改善されたことがある。職員との個別面談は行っていないものの、管理者は日頃から職員個々と話す機会を持つよう心掛け実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。(例:年次有給休暇を取得しやすい環境作り「行動計画策定」をしている。)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じそれぞれの職員が研修の受講や勉強会に参加できるよう配慮している。また、資格取得(介護福祉士、介護支援専門員等)の推奨も行っており、合格時には祝い金を支給している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会、勉強会、交換研修に交替で参加している。また、見学や研修等の受け入れも随時行っている。(コロナ禍以降は実施できていない)		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント段階で、要望等を把握し、出来るだけ本人が安心して暮らせる為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申請時、施設訪問・見学・所用による電話時、通院(救急)対応などの際に、ご家族の意向や悩み等を確認し関係作りに努めている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に入居の妥当性を検討している。 また、要介護3程度を目安に、特別養護老人ホームへの入居申し込みをご家族に勧め、ご本人の状態にあったケアを受けられるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の掃除、食器ふき、洗濯物畳み、後片付け作業やリネン交換等の時は、できる範囲で参加していただいている。会話の機会を多くして、信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の心身の状況を必要に応じてご家族にお伝えし、時には面会や通院の要請をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類からの電話の取次ぎや、事務所内での面会など、感染に気を付けながら出来る限りの関係継続を心がけている。	利用者の中には週に1回、家族のもとで外泊する方がいる。多くの利用者が2ヵ月に1回の訪問理容を利用しており、新たな馴染みともなっている。また、管理者が図書館から利用者の自宅周辺地区の写真などを借りてきて、回想的に活用して思い出話を引き出そうと試みている。これにより懐かしく思い出す利用者もいて、ミニドライブのコースとして立ち寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や状態変化に応じて、ホール等の談笑スペースの配置を変更する等、随時工夫している。また孤立する事が無いようにスタッフが声掛けをし、支えあうような支援につとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の受け入れ先が決まるまで、相談、支援するように努めている。利用終了後にご本人が亡くなった場合でも、極力弔問しご家族に挨拶するようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームシリウス奥州

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中でご本人の思いを把握し、ご家族の意向を確認して常に訴えを聞きながら対応している。	利用者の全員が言葉で思いや希望を伝えることができるが、高齢であることもあり、あまり言葉で発せられることがない。利用者の様子から、その思いをくみ取ってその都度対応し、内容は職員間で共有している。また、家族から利用者の意向等を確認し、対応するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	先に受けていたサービス提供者・ケアマネから情報を収集し把握に努めている。また、ご本人から雑談としてお話を伺うことで、生活歴を書き加えることもある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録や個別バイタル、食事、排泄記録簿に記載している。また、申し送り等で随時の情報共有に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話連絡、ケア会議時に話し合い、本人の状態に合わせた介護計画を作成している。	計画作成担当者が、介護記録等に基づいて毎月モニタリングを行い、これをもとに毎月のスタッフ会議の際にカンファレンスを行い検討し確認している。計画は、毎月のモニタリングやカンファレンスを経て、概ね3ヵ月毎に見直しを行っている。なお、利用者の状態に変化がある場合には、随時に見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は基本的に6ヶ月毎、毎月のモニタリングで必要に応じ変更や対応方法の検討を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方でご家族が接触できない場合など対応困難な際に、通院や検診等の送迎を実施している。外出される方について、以前よりご利用のシルバー人材センターの方や地域の方の付き添いを、継続してお願いしている。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームシリウス奥州

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんを毎回運営推進会議に設定し、運営推進委員に加わって頂いている。 台風による避難所開設の際指定避難所を管理者が訪問し、開設状況を確認している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでのご様子を文書で担当医に届けている。職員が通院を実施している場合は、直接ご様子を伝えている。体調、薬、について疑問がある際は、医師、薬剤師に指示を仰いでいる。	利用者は全員が入居前からのかかりつけ医を継続して受診しており、原則として家族が通院に同行している。1人が盛岡市まで通院しているほかは奥州市内の診療所等の利用であり、1人は月2回の訪問診療を受診している。市内にはクリニックも多くあり、医師との連絡体制も適切に取られ、医療面での不安感は少ない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に看護師へ状況をお伝えしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は地域連携室との連絡を随時実施し、情報提供を受けている。 水沢病院感染対策室に、利用者様のコロナ発生時の相談を仰げる様依頼済である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の対応を説明して入居していただいている。現況、状態低下が著しいかったり看取りが必要な場合等はホーム利用は困難であることを説明し、他の施設への申し込みを勧めている。	入居時には、重度化した場合の対応について説明し了解を得ている。看取り介護は行っておらず、入浴の際に浴槽を跨げなくなる状態になる等、介護度が進んだ場合には、家族と話し合い、特養施設などへの施設変更の支援を行っている。入院した場合でも、ホームに帰れずに特養などへの入所となる例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを備え勉強している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームシリウス奥州

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間職員独り体制を想定し、防災訓練を行っている。停電に備え、反射ストーブやカセットコンロを備えている。	ハザードマップでは浸水や土砂災害の危険区域に含まれておらず、年2回、火災想定避難訓練を行っている。夜間想定避難訓練も行っており、職員1人での誘導訓練を行っている。コロナ禍以前には近隣住民に3人の避難時協力者がおり、再度お願いする予定としている。食料等の備蓄についても、3日程度の確保を予定している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際の声掛けや、入浴、排泄時等には利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないような声掛けや対応を心掛け手ている。(目での合図、言葉掛けの工夫等)	利用者に敬意を払い、親しき仲にも礼儀をもって接しており、声掛けは「さん」付けで行っている。個人の尊厳に配慮しプライバシーを確保するため、例えば排泄で失敗した時などは、職員は素早く対処し他の利用者に気づかれないようにしている。トイレの誘導時には、小声で話しかけたり手招きで知らせる等の工夫を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望を聞くように努めている。また希望の訴え、自己決定を促し実現できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんが就寝した後も、ホールや居室でTVを見たり新聞を読んで過ごされる方などいらっしゃる。朝も利用者様の起床に合わせているものの、食事に遅れそうな場合などはこちらで起床を促すこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの身だしなみを整えられるように話を聞きながら支援している。約2ヶ月に一度の出張理容では、本人の希望やご家族からの話を聞いて理容師に伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を把握し、本人の咀嚼力や食欲に個々に合わせた量や提供体系を心がけている。食事前に口腔体操等を実施している。	献立は利用者の嗜好も参考にして、職員が話し合って作成している。各利用者の食事内容の硬さや刻み、嫌いなものや残すものなどの留意事項を表にしてキッチンに掲示している。利用者は、テーブル拭きなどを手伝っている。おやつ作りでケーキやおはぎ等を一緒に作って楽しんでいる。利用者は焼き芋を好まれている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好に合せ、メニュー変更や適正な量に配慮し提供をしている。それを踏まえ、配膳時に分かり易いよう台所へ禁忌の食品含めて一覧で掲示している。咀嚼、飲み込み等の機能低下が見られる方には刻み食で対応し、摂取量や水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアへの声掛けを行い一人ひとりに合った口腔内の清潔保持に努めている。歯科受診等も勧めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせた支援の方法を話し合いし自立に向けた取り組みをしている。(排泄のサインを見逃さない誘導。夜間のトイレ誘導。ポータブルトイレの設置。尿とりパットも、その容量について随時検討している)	現在はオムツの常用者はおらず、大半がリハビリパンツとパッドの利用となっている。夜間ポータブルトイレの利用が1人いるが、基本的には全員がトイレでの排泄ができている。職員は排泄チェック表を基に適時の声掛けと誘導を行っており、可能な限り自立した排泄を継続出来るよう支援している。90歳以上の方が大半であるため、現状を維持していけるようケアを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表や個々に聞き出し対応している。水分補給をこまめにする、掃除等生活の中で動く機会を作る、主治医の指示を踏まえて下剤服用の量やタイミングを工夫するなど、ホーム全体で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回入浴出来るように計画している。又、個人の要望に応える様努めている。(入浴の順番、お湯の温度等)	週2、3回の入浴を基本としている。強い拒否の方はいないが、日によって入浴を嫌がる場合には時間や曜日を変えて対応している。柚子湯などを楽しむほか、1人での入浴を希望する方もいて対応している。また、湯温についても各自の好みに合わせ、適温で提供している。異性介助の希望についても、意向に沿って対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は疲れ過ぎない程度に活動を援助し、午睡のし過ぎなどによる夜間時の不眠防止に努めている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の説明書を確認した上で服薬介助をしている。 服薬した上での症状の変化に合わせて、医師、家族と連携を取り、服薬内容を考慮頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来る作業(掃除、洗濯畳み、食器ふき、モップ掛け等)を支援している。ドライブ、レクリエーションなどや散歩等で気分転換ができるようにしている。職員が自ら調べてレクリエーション道具を自作するなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日はレクの日として設定しており、天気の良い日はドライブ(感染対策として人のいる場所では降車しない)を多く実施している。状況に応じてご自宅周辺をドライブすることもある。	感染防止に留意しながら、月2回程度のミニドライブ等の外出機会を楽しんでいる。お花見は県立花きセンターや水沢公園、紅葉狩りは金ヶ崎の武家屋敷通りと、近隣各所にでかけ、買物なども一緒に楽しまれている。事業所近くの神社などにも散歩で出かけることもあり良い気分転換となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則備品は立替払いであり、現在個人で金銭を所持されている方はいらっしゃらない。(極少額自室で所持されてる方はいらっしゃる)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を所持されている方については、操作補助、詐欺電話・詐欺メール削除、軽度のメンテナンスなど、適切な使用が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が季節に応じた飾りを作成、レイアウトし、家庭的な雰囲気を演出している。 各利用者様の関係性等から随時座席変更等も実施しており、ストレスが少なくなるよう工夫している。	ホール兼食堂には天窓から明るく日が差し込んでおり、エアコンと床暖房によって快適な温度と湿度が保たれている。壁面に職員たちが作成した飾り物が掲示され、利用者も一緒に作った季節感のあるみずき団子も飾られている。利用者は、思い思いに各テーブルやソファに座って寛いで過ごされている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、東ホールに椅子、ソファを工夫して配置しており、気の合う方同士で談笑頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、テレビ等馴染みの物を置き、ご家族の写真を壁に貼るなどしている。	居室の入口には、利用者が分かりやすいように「〇〇さんのお部屋」と紙に大きく書かれた表札が張り出されている。室内にはレンタルのベッドとタンスが備え付けられ、利用者はテレビや家族写真などを持ち込んでおり、壁にはお孫さんからの手紙や敬老会の写真などが飾られており、居心地よい室内となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自立した生活が支援できるように居室のレイアウトや動線に、随時変更を加えている。		